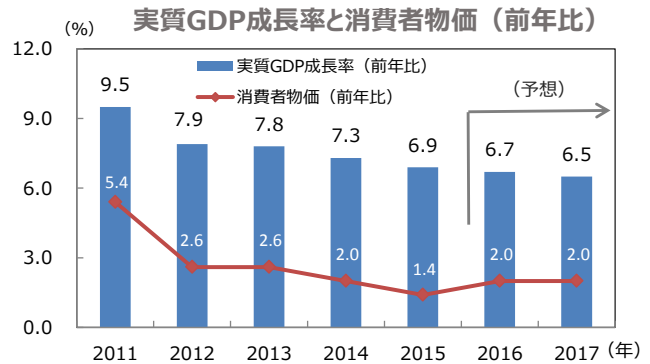


今日のトピック 2017年中国経済の見通し

17年は6.5%成長、景気は安定的な動きが継続

ポイント1 16年は6.7%成長を予想 インフレ率はやや上昇

- 16年の中国の実質GDP成長率は、前年比+6.7%を予想します。投資の伸び鈍化などにより、15年の成長率（同+6.9%）からやや減速しますが、四半期でみると、3期連続で前年同期比+6.7%となるなど、安定して推移しています。
- インフレ率は上向いています。生産者物価の前年比はプラスに転換し、デフレ脱却を示しました。食料品の上昇などから、16年の消費者物価（前年比）は、15年（同+1.4%）を上回る、同+2.0%を見込みます。



(注) データ期間は2011年～2017年。

2016年、2017年は三井住友アセットマネジメントの予想。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 17年は安定重視の経済政策 構造改革より経済の安定を優先

- 17年の経済政策運営の方針を決める「中央経済工作会議」が12月14～16日に開催されました。同会議で、過剰生産能力削減などの構造改革よりも経済の安定を優先させる方針が示されました。
- 経済の安定を実現するため、公共投資や減税などの財政政策を継続する一方、金融政策を中立型にやや引き締めて、不動産バブルの発生を抑制する方針が示されました。

「中央経済工作会議」の主な決定

- ・安定の中で前進を目指す路線を堅持
- ・経済運営は合理的な範囲内で、質と効率を重視
- ・財政政策はさらに積極化して効率を上げる
- ・金融政策は穏健で中立に保つ
- ・人民元は合理的で均衡ある水準を保つ
- ・不動産は住むもので投機の対象ではない

(出所) 各種報道を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 17年は6.5%成長へ、景気は安定的な動きが継続

- 17年の中国経済は前年比+6.5%の経済成長を予想します。「中央経済工作会議」において、経済の安定を優先させる方針が決まり、財政政策の継続が見込まれるため、景気の大きな下振れは回避される見通しです。不動産バブルに対しても目配りをしていることから、今後も景気は安定的な動きが続くと見られます。また、17年の消費者物価は、16年に続き、前年比+2.0%を予想しています。

ここも
チェック!

2016年12月22日 安定重視の「中央経済工作会議」(中国)

2016年12月21日 落ち着いた始めた「70都市住宅価格」(中国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。